

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	IT・プログラミング療育 ツクルADVANCE 生駒校		
○保護者評価実施期間	2025年 2月19日		2025年 3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年 2月18日		2025年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じた専門的支援 個別療育と集団療育を組み合わせた支援	スペースを分けて、個別と集団両方の療育を行うようにしている。社会性や人間関係に関するニーズが多いため、集団活動では、同年代との交流をテーマに支援を行うことを心掛けている。 また利用者にもその日の計画立てと振り返りを行う時間を作ることで、見通しを持つ考えや意識を持てるよう支援している。	挨拶や計画立て、振り返りを浸透させていくことで、より具体的な見通しを立てたり、論理的な思考を持てるよう取り組んでいきたい。
2	過ごしやすい環境、療育スペース	主な利用層が中高生であることを踏まえて、少し大人向けの落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。 (音楽、家具の配置など) 時間の使い方についても、ゆとりのあるスケジュールにすることで気持ちが切り替えやすいようにしている。	試験前になると勉強したいというニーズが増えてくるため、学習スペースの確保などを今後より整えていきたい。
3	ケース会議の実施とニーズに合った個々の課題設定	毎日ケース会議の実施をしており、個々の課題を明確にし、療育にあたるようにしている。 個々の利用者に対して共感的な姿勢で接することを心掛けている。	個々の課題のカリキュラム作成や興味の幅を広げていくために教材の充実化を図っていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の子どもと交流する機会	これまでの課題として、今年度地域交流のイベントの開催を行ったが、まだ開催頻度としては少なく、利用されている方にも実施していることへの周知などが出来ていない。	開催頻度の増加、およびその情報の発信をより広げたい。
2	家族支援(ペアレント・トレーニング等)の機会 保護者会などの開催	保護者会の開催は行っているが、頻度がまだ少なく参加できている保護者も少ない。	開催頻度の増加、およびその情報の発信をより広げたい。
3	保護者への情報提供・事業所からの発信	月1で専門職コラムの発信やHPで活動報告を行ったり、Instagramで普段の療育やイベントの様子の発信を随時行っているが、まだまだ周知が足りないと思われる。	情報発信の頻度を増やす(特にInstagram) また多くの人に見てもらえるよう、保護者会などの開催時に周知活動も併せて行っていきたい。